

□ 複合施設の設置及び運営に関する懇談会
第1回 図書館・文学館分科会 議事録要旨

日 時	平成 21 年 11 月 12 日 (木) 19:00～20:30
場 所	荒川区役所 3 階 特別会議室
出席者	〔委 員〕 柳田邦男分科会長、山崎一穎副分科会長、 齊藤泰紀委員、並木一元委員、戸田光昭委員、横山幸次委員、 興野愛子委員、竹内 一委員、友塚克美委員、藤田満幸委員 〔事務局〕 佐藤社会教育課長兼文学館調査担当課長、 北村南千住図書館長、坂入文学館調査係長、吉野管理係長、 水野サービス係長、須田主事、石原主事

- 1 分科会長、副分科会長の選任
- 2 分科会の進め方について
- 3 議事

(1) 荒川区立図書館の現状と課題 (事務局説明)

- ・荒川区立図書館の概要 (映像説明あり)
- ・荒川区立図書館の主な特徴
- ・利用者の図書館満足度調査
- ・荒川区立図書館の課題

(2) (仮称) 吉村昭記念文学館の現状と課題 (事務局説明)

- ・作家・吉村昭氏と荒川区
- ・調査・研究経過 (映像説明あり)
- ・(仮称) 吉村昭記念文学館設置に向けた計画の検討経過

(3) 意見交換

- ・柳田委員には分科会長になられても、進行だけでなく、遠慮なくご発言をしていただきたい。
- ・(仮称) 吉村昭記念館は、単に吉村昭記念館だけではなく、吉村昭を中心にして文学への親近感・広がりを持った記念館にしていくとう、事前に検討されてきた全体の大きなコンセプトがある。
- ・吉村さんがやった仕事の意味を考えると、幕末・戦時中の記録文学であり、記録文学が問いかけるものは何か？ そこが吉村記念館の成功のキーポイントになるのではないかと。
- ・文学館の目的・基本理念等の中に「観光の視点」も入れて欲しい。
- ・吉村作品の中にも地方都市がたくさん出てくるが、地方との交流も大事にして欲しい。
- ・それと、子どもたちのことが書かれていないので、子どもたちが、吉村昭に関心を持ち、触れ、本を手にとって読むために具体的にやって欲しい。
- ・吉村作品は単行本が少ない。難しいのかもしれないが、文学館ができる以上は、出版社にお願いして単行本の復刻してもらおう努力をして欲しい。

- ・今はオンデマンドブックにより装丁なしでプリントされ買えるため、早く絶版にして欲しい人はオンデマンドブックを利用するシステムになってきている。在庫に税金がかかる日本の税制は文化に厳しくなっている。
- ・小説を読んでその人好きになるのではなく、小説を読む前に何らかの形で吉村昭の名前を知らしめることも子どもには大事。
- ・少なくとも荒川区の小・中学生は小説は読めなくても吉村昭の名前を覚えられように。子どもや素人にも広く興味を待たせる面でどう対応するか。
- ・地方では教育委員会がその土地だけの文学者だけでなく郷土の副読本を作り、紹介・親しめるようになっている（例えば、十和田湖の養殖・和井内貞行。秋田・鹿角市の内藤湖南）。
- ・荒川区における吉村昭は特別なので東京の中の荒川村として考えると吉村昭の短編・エッセイ等は副読本に採用されてしかるべき。そういう親しみ方が子どもたちにはメッセージとしてはっきりする。
- ・映像の力で見せる展示を作る。映像をどうやって生かすか。今の若者は映像に対して関心が強いので、それをどうやって引っ張り出せるかがカギとなる。
- ・図書館・文学館の資料の保管・保存に関してはどのようなしくみになるのか。子どもたちのスペースがどうなるのか。図書館ではレファレンス機能・人の問題、文学館では学芸員の配置がどのような質・規模になるのか。今後はこの辺りのことも頭に入れ議論していきたい。
- ・西日暮里 6 丁目に吉村先生と同級生という知り合いがいるが吉村昭記念館を作る上で資料として、そのような方たちが核になったグループ作りも必要。輪を作り、意見・声を取りまとめていただきたい。

4 次回分科会について（事務局説明）

12月15日（火） 18:30 から 特別会議室

5 事務局から事務連絡